

### Ⅲ種PC(はり)の曲げ変形性状に関する研究

京都大学工学部

京都大学工学部

建設省

正会員 田中 靖

正会員 小林和夫

正会員 大石龍太郎

#### 1.はじめに

従来のPCとRCとの中間に位置し、最近国内外で急速に関心の高まっているⅢ種PCを取り上げ、種々の載荷条件下で試験を実施することによりて、その耐力、ひびわれ性状、たわみ性状、じん性、復元力特性、減衰性等の基本的曲げ諸性状をⅠ種PCあるいはRCと対比検討した研究のうち、本報告は持続荷重載荷実験の結果を中心に、Ⅲ種PCの長期応力状態下での変形挙動、特にたわみ性状、ひびわれ性状およびプレストレスに注目して考察を行なったものである。

#### 2. 実験概要

(1)実験計画；本実験では、鉄筋(普通異形鉄筋)比、プレストレスの導入レベル、荷重を要因として取り上げ、Ⅲ種PC(はり)の持続荷重下での曲げ変形特性をRC(はり)と対比検討した。実験計画を表-2に示す。

(2)使用材料およびコンクリートの配合；セメントは普通ポルトランドセメント、細骨材は愛知川産川砂(比重2.60, F.M.=3.2), 粗骨材は鞍馬産碎石(比重2.64, 最大寸法10mm, F.M.=6.32), PC鋼材は異形鋼棒D種1号(SBPD130/145)のΦ7.4mm, Φ9mm, 鉄筋は異形鉄筋のD10, D13(SD35)を各々使用した。またコンクリートの配合および持続荷重載荷時のコンクリートの諸強度を表-1に示す。

(3)供試体および実験手順；はりの寸法は $10 \times 20 \times 160\text{cm}$ , 断面は図-1の矩形断面であり適当なせん断補強を行なってある。

載荷方法は図-2に示すように対称2点集中載荷(スパン140cm, 曲げスパン40cm)のはりを2本で1組とし、各はりは材令5~7週でプレストレスを導入、9~10週で持続荷重を載荷し、恒温室内(温度20°C, 湿度45%)に放置した。載荷荷重レベルとしては、死荷重(コンクリート下緑応力が許容引張応力になる荷重)、すなばくに最大ひびわれ幅が0.1, 0.2mmとなる設計荷重を設定し、たわみ、ひびわれ幅およびその発達状況、PC鋼材ひずみの経時変化を測定した。

#### 3.たわみの理論的解析法

持続荷重下におけるたわみの経時変化を2つの解析法、すなばく(1)Branco=による方法、

Okada Kiyoshi, Kobayashi Kazuo, Ōishi Ryūtarou

(2)はり圧縮線でクリープひずみを考慮した条件式を満足させる方法に基づいて推定した。なお、解析にあたってはクリープ係数、乾燥収縮ひずみの値はCEB-FIP国際指針(1970)によつた。(1)によればプレストレス導入時を基準時間としたときの任意時間後のスパン中央たわみまたは次式で与えられる。<sup>1)</sup>

$$\delta t = -(\delta i)_{p_0} - \left[ -\frac{\Delta P_t}{P_0} + (k_r \varphi_t) \left( 1 - \frac{\Delta P_t}{2r_0} \right) \right] (\delta i)_{p_0} + (\delta i)_s + (k_r \varphi_{t,s}) (\delta i)_s + \delta r \quad \dots \dots \textcircled{1}$$

(2)では長期曲率  $\rho_{lt}$  を次式で表し、これを積分して  $\rho_l$  を求める。

$$P_{Rt} = \frac{M}{EI}, \quad E' = \frac{E_0}{(1 + \varphi_t) - (1 + \frac{\gamma_0}{2}) \frac{\Delta \sigma}{\sigma_{c0}}} \quad \text{ただし, } \varphi_t: \text{クリーフ係数}$$

#### 4. 実験結果および考察

(ii)たわみの経時変化；たわみの経時変化を表-2および図-3～6に示す。表-2より各種PCはりはRCはりに比べ初期たわみを抑える効果はあるが、たわみの増加率では差異はなく、プレストレスによる持続荷重下でのたわみ制御効果は殆んどないといえる。また、解析法(1), (2)により長期たわみの推定が可能と思われるが、その際にソリーフ係数、乾燥収縮ひずみの評価法が問題となろう。この実験ではやや推定値は過少評価している。

(2) P C鋼材ひずみの経時変化；図一より荷重によるひずみ増加は殆んど見られず、且種々このP C鋼材ひずみ変化はプレストレスロスによるものが卓越する。(図一ア参照)

(3) ひじわね性状の経時変化；ひじわね幅についてはⅢ種P,C,R,Cはりとも殆んど増加はないが、ひじわね本

表-2 室内试验方法

水銀比  $P_2 = \frac{As}{Ba}$ ,  $d_1$ は鉛 $Y_2$ とPC鋼板の表面積の比で  
× × B/P 5.2,  $\varphi_{90^\circ}$ のPC鋼板に使用する  
× × ①は重り(1kg), ②は0.1m<sup>2</sup>のUV吸収面積, ③はD<sub>2</sub>の最大吸収波長  
× × ④は強度の測定における初期値に対する比を示す

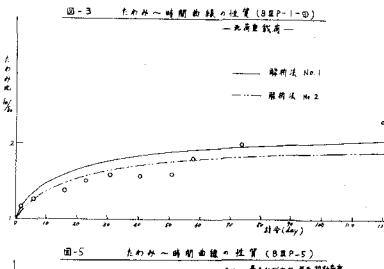
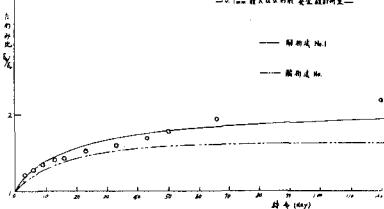
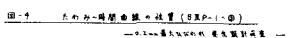
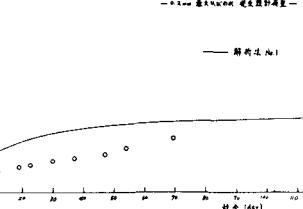


圖-5 木材之時間曲線之性質 (BSP-5)



22 23 24 25 26 27 28 29 30 31  
22 23 24 (day)



20 40 60 80 100  
射程 (Arc)

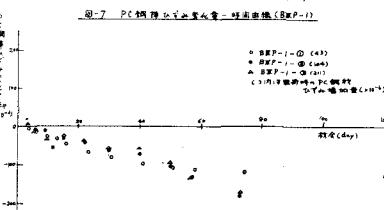
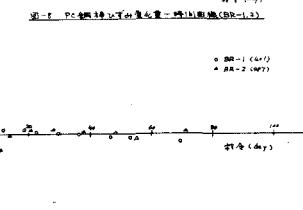


图-7 PC塑料软管连接器-呼啦圈接头(BSP-1)



<sup>1)</sup> Dan E. Branson, "Deflection of Concrete Structures" McGraw-Hill International Book Company, 1977, pp. 396-397